

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

平成 28 年 6 月(週報第 22 週～第 26 週(5/30～7/3))集計の感染症発生動向調査情報に関する「栃木県結核・感染症サーベイランス委員会」の解析評価結果は次のとおりです。

## 1 感染症解析情報 [6 月は 5 週間、5 月は 4 週間、前年同期は 5 週間での比較となります。]

### (1)概況

ア. 6 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5 類)把握疾病は **56 件**(5 月は **37 件**)でした。

定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **2,234 件**(定点あたり **10.55 件/週**)であり、5 月の **1,524 件**(定点あたり **8.93 件/週**)と比較し、週あたり **1.18 倍**とやや高い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<b>627 件</b> (週あたり平均 125.40 件)	↑ <b>(1.21 倍)</b> 前月は 416 件 (週あたり平均 104.00 件)	→ <b>(1.00 倍)</b> * 前年同月は 627 件 (週あたり平均 125.40 件)
感染性胃腸炎	<b>623 件</b> (週あたり平均 124.60 件)	↑ <b>(1.33 倍)</b> 前月は 375 件 (週あたり平均 93.75 件)	↓ <b>(0.88 倍)</b> * 前年同月は 706 件 (週あたり平均 141.20 件)
伝染性紅斑	<b>258 件</b> (週あたり平均 51.60 件)	↑ <b>(1.12 倍)</b> 前月は 185 件 (週あたり平均 46.25 件)	→ <b>(0.97 倍)</b> * 前年同月は 265 件 (週あたり平均 53.00 件)

- ① **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、前月に比べ報告数が 1.21 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 1.00 倍とほぼ同様の水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.33 倍とかなり高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.88 倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、同様の水準で推移しています。
- ③ **伝染性紅斑**は、前月に比べ報告数が 1.12 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 0.97 倍とほぼ同様の水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、同様の水準で推移しています。

### (2) 全数 (1～5 類) 把握疾病情報 (全国)

ア. 1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 2,281 件(5 月 1,862 件)、コレラ 2 件(5 月 0 件)、細菌性赤痢 14 件(5 月 7 件)、腸管出血性大腸菌感染症 434 件(5 月 135 件)、腸チフス 7 件(5 月 5 件)、パラチフス 1 件(5 月 3 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類 (上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	442	347
2	侵襲性肺炎球菌感染症	190	294
3	レジオネラ症	155	114
4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	129	108
5	後天性免疫不全症候群	112	93
6	アメーバ赤痢	99	81

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 56 件)

結核 34 件、腸管出血性大腸菌感染症 4 件、A 型肝炎 1 件、デング熱 2 件、レジオネラ症 4 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件、梅毒 4 件

## 2 疾病の予防解説

夏季に多く発生する感染症は、腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナ、手足口病などです。夏季は暑さのため体力を消耗しやすく、特に、乳幼児や基礎疾患を持つ高齢者などは、重症化することもありますので注意が必要です。

これらの感染症は、手洗いとうがいによる予防が有効です。日頃から、バランスの良い食事や十分な栄養を心がけ、症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
腸管出血性大腸菌感染症	大腸菌O157、O26、O111など 3～5日間	全く症状が出ないこともあります。下痢、発熱、激しい腹痛、血便などが見られ、ときに重症化し溶血性尿毒症症候群や脳症を合併することもあります。	トイレの後や、調理・食事の前には必ずせっけんで手を洗ってください。生肉を食べることは控え、内部まで十分に加熱（中心温度が75℃、1分以上）して食べるようにしてください。
咽頭結膜熱（プール熱）	アデノウイルス 5～7日間	発熱、頭痛、食欲不振、全身のだるさ、のどの痛み、結膜炎を伴う症状が3～5日間続きます。基礎疾患がある方、乳幼児、高齢者では重症化することがあります。	手洗いとうがいを励行してください。プールの前後には、シャワー、うがいをきちんと行い、他の人とのタオル・ハンカチの貸し借りは避けてください。
ヘルパンギーナ	コクサッキーAウイルスなど 2～4日間	突然、高熱、のどの痛みが現れ、口の中に小さな水ぶくれができ、ただれて痛みをとまいません。水分が摂れず脱水症になることがあります。ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。	手洗いとうがいを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行いましょう。
手足口病	コクサッキーAウイルスなど 3～5日間	手・足・口の中に水疱性の発しんができ、時にかゆみ、発熱をとまなう場合もあります。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを合併することもあります。	手洗いとうがいを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行いましょう。

（参考）国立感染症研究所 ホームページ <http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases.html>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、6月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第22週 (5/30～6/5)	第23週 (6/6～6/12)	第24週 (6/13～6/19)	第25週 (6/20～6/26)	第26週 (6/27～7/3)
伝染性紅斑	【警報】 県北	【警報】 県北	【警報】 県北	【警報】 県北	【警報】 県北

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。